

蓋シ上陸軍ニ比シ兵力裝備劣レル防者トシテ敵ニ優ル戦力ヲ發揮シ得ルハ敵カ陸上ニ展開シ終ラサル水際ヲ除キテ他ニ之ヲ求メ難ク縱シ艦砲射撃ノ威力大ナリトモ今ノ所之ニ對抗スルハ單ニ築城ノ應用一ツニテモ求メラルレハナリ

然ルニ艦砲射撃ノ威力ヲノミ理由トシテ反動的ニ水際撃滅主義ヲ放棄シ而モ陸上ニ於テ戦闘成ラズト考フルハ不適當ナリト謂ハサルヲ得ス勿論水際撃滅トハ歩兵火器ヲ水際ニ配列セヨト謂フニアラス豫想スル敵ノ橋頭堡ヲ我火制下ニ置ク程度ニ海濱ニ火網ヲ構成スル場合モ地形上屢々之在リ得ヘシ

從來ノ經驗ニ徴スルニ敵カ橋頭堡ニ守勢ニ立テアル期間ハ我行動宜シキヲ得トシ持久目的ヲ達シ易シトヒテアク守備隊ノ奮闘ハ之ヲ明證シテ一旦敵ヲ驅逐シ放テハ彼我ノ裝備上我防備目的地特ニ飛行場ハ忽チ敵手ニ入ル虞大ナリ蓋シ敵ハ損害多キ正面力攻ヲ避クル爲砲兵ノ展開長時日攻撃準備ニ時日ヲ費ス習性ヲ有スレハナリ

夜襲ノ實施法

敵ハ橋頭堡ニ對スル我夜襲阻止ノタメ組立トトチカ及鐵條網ノ利用

地雷ノ設置候敵裝置ト連絡スル火力準備、照明等アラユル戦法裝備ヲ執リアリテ我夜襲ハ概シテ不成功ノ例多シ

之ガ爲夜襲ノ實施法ハ威力ノ併用、煙ノ利用、小數精銳部隊ノ利用等研究ノ余地少カラサルハ別トシ茲ニ注意スヘキハ上陸防禦兵團ノ主力ヲ擧ゲテスル夜襲カ却テ敵ノ上陸遂行ヲ助成スルコトアル現象トス

即チサイパンノ七月十六日ノ夜襲大宮島、昭和西方面地區守備隊主力ノ夜襲カ損害甚大ナル爲尔後敵橋頭堡ヲ包圍阻止スヘキ我火力戦線ヲ崩壊スルノ結果ヲ生ム爲敵ハ易々トシテ尔後進路ヲ啓キ得ル戦例ニ顧ミルヲ要ス

第八、上陸防禦裝備ニ就テ

上陸破推ノ最良武器ハ航空威力ナルハ勿論ナルカ從來一度敵上陸スルヤ一度モ之ヲ撃滅シ上陸企圖ヲ破推セル例ナキ遺憾ナル實情ニ鑑ミ此ノ際陸海兵有スル資材兵器ヲ統合活用シテ此ノ種任務ニ從事スル兵團ノ戦力ヲ増強スルハ國家興廢ニ関スル刻下ノ急務ト謂

ハザルヘカラス 夜襲 外攻撃 去ナク 而モ 夜襲 成功 見ルキ 現況ニ
於テ 軍隊ヲ 不良ナル 裝備ニ 置クハ 眞ニ 忍ビサル 所ニシテ 殊ニ 對戰車
裝備 如キハ 絶対ニ 必要ナリ

一 泊地攻撃 手段ノ 整備

海岸砲台ハ コアニアニシテ ハ 頗ル 有効ニ 活動セリ 艦砲ヲ 制スルハ 水魚
發射機ノ 設置ヲ 緊要トス

又 飛機類ノ 電撃手兵器ニ 關シテハ 茲ニ 省略ス

二 水際防禦 兵器ノ 主体

裝甲セル 舟艇ニ 對スルニモ 戰車カ 敵注 戦力ナル 意味ニ 於テモ 消耗
乃至 必 耗級 速射砲ヲ 多數 必要トス

三 戰車ノ 裝備

火炮、地雷 各種 肉泊 攻撃 手段 材ノ 十分ナル 裝備ヲ 要ス 地雷ハ 縱
深アル 地雷源ノ 設置ヲ 可能ナラシムル 必要トス

又 戰車ノ 炎上シ 易キニ 鑑ミ 飛行場ノ 燃料ト云 罐ヲ 現地ニ 利用
スル 火焰 放射器ノ 工夫ヲ 必要トス

四 水際各種 障礙

對 舟艇、對 戰車、對 步兵、多々 爆發性 障礙ヲ 必要トス 其ノ 數箇

シテハ 前項 同様ナリ

五 橋頭堡ノ 敵兵殺傷 兵器

MG 砲、BA 特ニ 砲兵 裝備ヲ 十分ナラシムル 外 噴進 彈式ノ 威力 擲射
兵器 多數ヲ 要ス 海軍ニ 於テハ 爆彈 投擲器モ 實用化セリ

六 戰車

反 戰車 用トシテ 絶対 必要ナリ

之ヲ 要スルニ 如何ナル 理想論モ 實現セサレハ 無役ナレハセメテ 爆藥 重擲
兵器 彈丸 十 十分ナル 支給ハ 絶対 必要ナリ

(終)

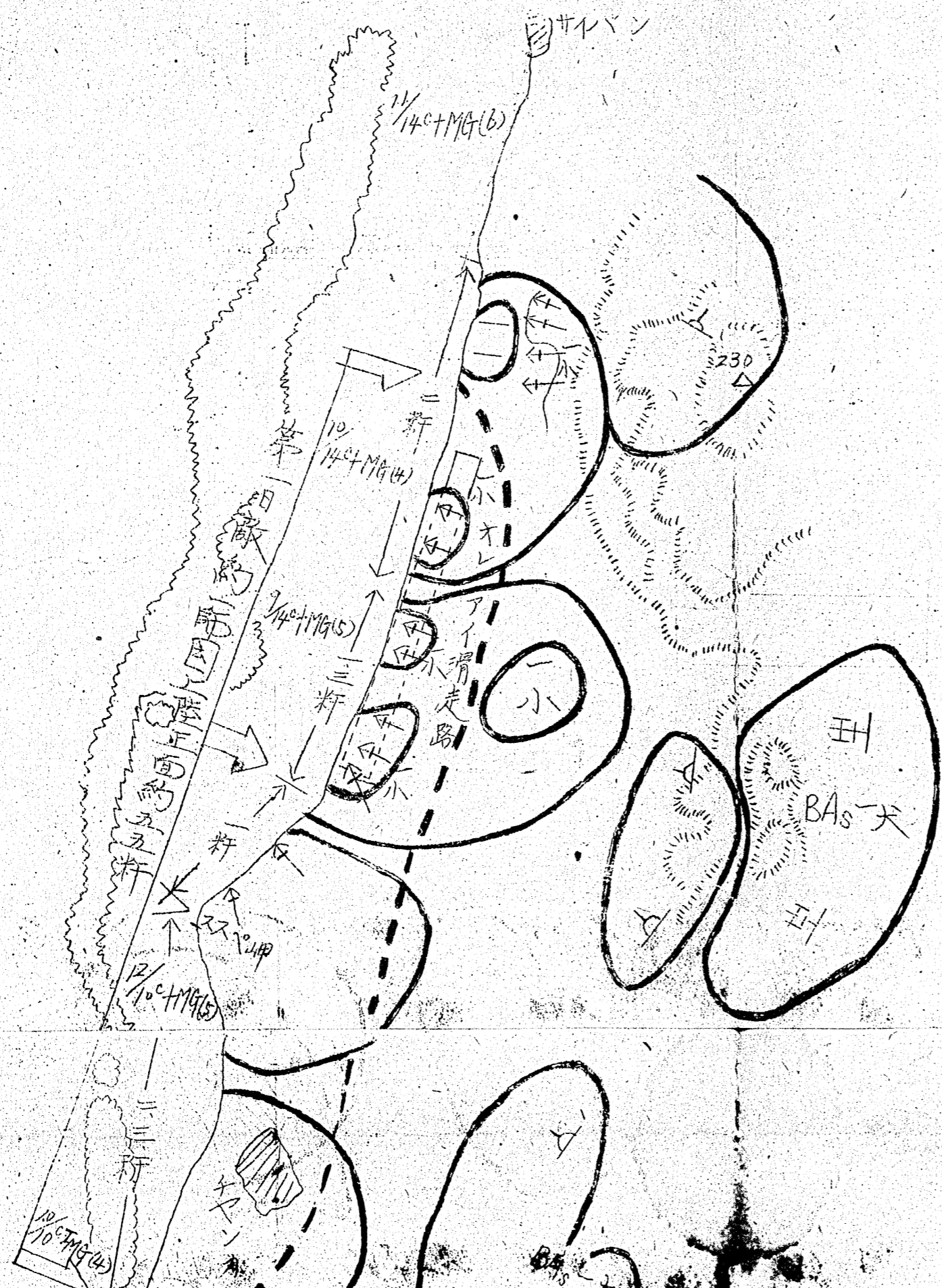
サイパン砲撃経過

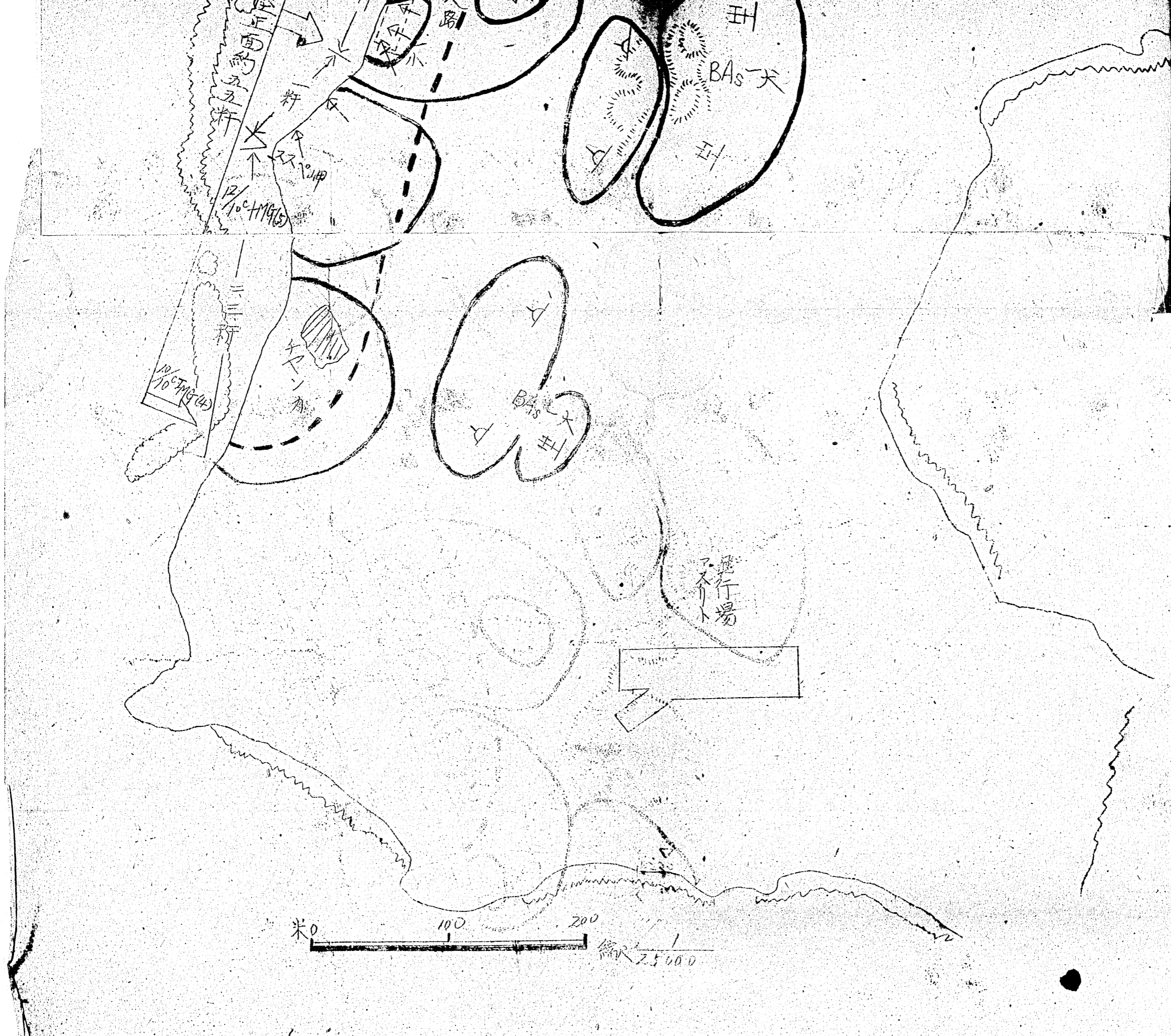
6 13	09 45	敵艦砲撃開始	6 21	晝夜間=直リ艦砲射撃猛烈
	13 50	56基地周辺砲撃ヲ受ク	6 23	昼間 Bx5 } PS西岸=アリテ揚 Cx2 } 陸掩護砲撃 αx9 }
	16 30	砲撃ヲ止ム		Cx2 } 哨戒陸上砲撃 αx8 }
6 14	02 30	敵ノ終夜砲撃ヲ進行(緩除)	夜間	東岸αx1~2ヲ以テ終夜 照明彈射撃 PS周辺ノ敵艦艇ノ砲 撃ハ晝夜=直リ連日猛烈 ナリ
	04 30	Bx3 } ヲ以テ西方列再ビ αx18以上ノ砲撃開始	6 29	13.15~1500 αx3 PSL砲撃南=本 艦砲射撃前日=比ノ熾 烈ナリ
	05 00	東方部隊砲撃開始	7 1	
	04 30	旧式B(NEW MEXICO)x2 主シテ埠頭方面及軍艦島砲撃 LowA型x2(内1xP)及Cx2ハ チャランカノ間砲撃 アリカン中 白燐多量=噴出ノ三式彈樣ノ砲 彈ヲ使用 South Sakata型Bx2 Cx2主シテ アリカン中ノ間砲撃 ハナクタン中 Bx2 } 東岸ヲ砲撃 Cx2 } 陸上砲撃=対シテハ徹底的=砲 火=砲火ヲ集中シテ 06 00 } Cx9 } 群=分レ内=群ハ αx21 } PSヲ至近距離ヲ以テ砲撃 アリ連日砲撃中	6 07	30 } Cx1 } 港=対シ砲撃 15 15 30 } αx2 } NW及SEヲ以テ砲撃
6 15	04 30	西岸=敵上陸開始第一第二上 陸失敗	7 8	陸上戦事終結 周辺艦艇ノ砲撃ハナクアン島ヲ 行
	11 05	チャランカノ着岸上陸水止艦艇ハ 統シテ西岸=近接上陸西側至近距離 =敵ノ砲撃ヲ以テ猛烈ナル掩護砲撃 ヲ施行中		
終夜		間断ノ砲撃施行シ陸上戦ヲ掩護シ		
6 17		本夜ハ砲撃稀シテ照明彈ハ間断 的ナリ 北東側地区=照明彈々々着ヲ目撃		
6 18		敵ノ砲撃ハ減セリ		

別圖 凡例

第一日敵占據線

齊藤師團兵力ハサイパン北部ニ集ルベシ
 サイパン南部ニ同規模ノ防備アリ





附圖 硫黃島砲擊現狀(七月四日)



防空火器位置ハ
敵機攻撃セザルヲ以テ
安全ナルニ注意
砲撃
巡洋艦ハ約時間見ルキ
駆逐艦ハ被害ナシ

來龍機四三三機内艦爆五機

三機炸彈直
三機炸彈直
燒夷彈

約二五機

被害
飛行機地上被壞百餘機
高角砲八門中二門破損
機銃約四基中一基使用不能
人員被害僅少
戰果
防空火器三機撃墜
空襲二機撃墜
砲撃第一次
四三機

堅集參乙第一四七號
丙第十一號

昭和十九年七月二十六日
堅集團參謀部

情報特報

(一) 敵ノ弱点ヲ形成スベキ主要ナル條件(大本營)

敵ノ弱点ヲ形成スベキ主要ナル條件ト認メラルル事項左ノ如シ

1. 敵ノ後方連絡線ハ今後長遠ノ一途ヲ辿ルニシテ不毛地ニ對スル補給量ハ益々増大セザル止ムナキ狀態ニアレバ敵ニ有利ニラザルトナリ

2. 人的資源ノ枯渴ト米國々民性及社會情勢ノ特性ニ基キ極度人命ヲ愛惜シアルハ乘ズベキ弱点ヲ形成シ得ベシ

3. 火力重視ノ思想強ク之ガ多ク又我が火力ニ對スル受性頗ル大ナリ即チ我が火力ヲ勉メテ賸在シツツ換ニ投シテ瞬間的急襲火力ヲ發揚スル場合ニ於テハ容易ニ其ノ戦力ヲ滅殺シ得ベシ

(例) 川東大隊ガブミ(クシヒ)西方面約三〇軒(守備隊ハ主陣地前ニ六個ノ前進陣地ヲ設ケ此ノ間敵ヲ陣地前約一〇乃至二〇米ニ列キ付ケタル後各種火炮ヲ以テ一瞬ニ之ヲ撃滅ス

4. 戦機ヲ捕捉スルノ活眼ト獨斷能力ニ之シテ任務ノ限度ヲ超越セルノ發動性ヲ缺キ爲ニ作戰的好機ヲ無爲ニ逸スルコトアリ

(例) 我が兵団、フライング方面ヨリ転進時ニ於ケル米第三二師団ノ全ク無爲無策ナリシ例

攻撃ノ初動ヲ撃破セラレシカ類ル消極ナル弊アリ

(例) 中井支隊正面ノ戦斗ニ於テ我が右翼ニ對スル敵ノ攻撃ハ其初動ヲ我が守備線ニ撃破セラレヤル後全ク消極ト爲リタリ

一般ニ警戒心薄ク奇襲ノ好機多シ特ニ夜間ニ於テ然リ

(二) 最近敵潜水艦ノ戦法ノ趨向(出所ニ關シテ他綜合)

最近ニ於ケル攻撃戦法ハ積極且放膽ナレリ

敵ノ射撃距離ハ一〇〇米附近ヨリ發射シテ晝間哨戒下ニ於テモ攻撃スル等逐次放膽トナリ又一回ノ發射ニ

其戰法執拗トナレリ而シテ其戰法(一回ニ一本)引継ギ攻撃シ未ダ

イ對船(大型船)攻撃ノミナラス

只上陸前ニ於ケル敵諜者ノ投入對地連絡對地砲撃豫想上陸地域附近ノ監視偵察

ハ空襲時ニ於ケル對空連絡誘導及不時着人員ノ救助

ニ對漁船銃撃俘虜ノ獲得糧秣強奪

ホ機雷敷設ニ依ル港灣封鎖等

(註) 魚雷ハ瞬發信管ヲ使用シ吃水淺キ船舶(海上トラス等)ニ對シテモ有効ナリ

(三) ジヤワ島空襲ヨリ得タル戰訓(出所沒集團)

一 戰果ヲ擴大シ損害ヲ減少シ得タルハ平素ノ周到ナル訓練ニ依リ

イハ三〇敵機未襲ノ報告ヲ受領セリ

將校タルモノ當然警報發令シ待ベキ當時ノ日直將校ハ敵機ト判

断シツモ警報發令ノ決裁ヲ得ルタメ時間ヲ空費シニ五分ノ後即チ

八五分空襲警報ヲ發令セリ

時既ニ敵機ハ谷約二十機宛ニ編隊ニテスラバヤ南側ニ進入シエ場地帯

ヲオノモリ制油所及港灣並ニ飛行場地帯ヲ急襲在空各約七分

(總時間十七分)ノ至短時間ヲ以テ急襲退去セリ

警報ノ發令遲延シ尚數度ノ空襲ハ常ニ夜間ニシテ發令後來襲

迄ノ時間觀念力夜間ト同様ト判断ヲ誤リタルモノ多カリシハ(嚴ニ戒ム

ヘキトナリ)

損害特ニ人的損害ヲ大ナラセタリ

之平素ノ準備平時的ナルヲ示シタルモノナリ

四 原地人ニテモ訓練ノ如何ニ依リ